

自蹊庵便り

令和二年 文月

NO 144

（令和二年五月の思い）

新緑から深緑に移りゆく、この旬の勢う
空気をいっぱい吸っていらっしやいます
か。まさに、「青山緑水是我が家」の如く、
森羅万象が私の家と認識新たな思い募る
のもこの季節にございます。天地万物と一
体になって過ごせることの喜びをつとに感
じる季節がこの時期でありますのに、令和
二年という年は憂い浅からずして夏に向か
うようでございます。

そんな中、ちよつとシヨックな出来事
があり、少なからず悲しみから立ち直れず
おります。と、申しますのは、京都は八瀬
のまなびやの傍ら（二〇〇メートル位離れ
た処）に大公孫樹があり、今の家を決める
ときの即決の大きな決めての一つでもあり
ました。四〇五百年はたっているのではな
いかと思う程の大樹にて、道を隔てた川沿
いにあり、古い石碑がその傍らにあること
を思えば、大切な記念樹とも思われますが、
つい先日、大きな音がいつまでも続くので

外に出てみますと、大きなクレーン車が操
縦され、次々と大公孫樹が伐採されている
ところでした。その音は三〇四時間も続い
たでしょうか、大樹の枝々はことごとく切
られ、丸はだかに近い状態になってしま
いました。

まなびやの隣家は古刹のお寺、そのお寺
の楓の紅葉とこの大公孫樹の黄金の借景の
美しさは見事なものでした。

京都滞在の折は、その美しさと川音に誘
われ、朝々の散歩を楽しんでいたのです
が…。川では初めての散歩の時、大山椒魚
にも出会い、「初めまして…宜しくね…」と
挨拶したら、橋の下までのっそのっそと、
寄ってきてくれ感動したものです。

公孫樹は姿良し、青を残しつつ黄に深ま
りゆくさま、やがて黄金一色に、朝に夕べ
に陽に照らされる荘厳さは、まさに神宿る
木にございます。土に落ちてなを力ある美
しさを楽しませてくれる恵みは財をなして
も買えるものにあらずして、只々、無念の

涙にございました。

きっとその傍らの川に住まいする大山椒
魚も、この秋の黄金の落葉が笹舟ならぬ公
孫樹舟に出会えないことをいぶかることに
ございました。

伐採の理由は、大樹ゆえにクレーン車を
借りるにも金がかかるゆえ、思い切つて枝
を落としておく必要があるとのこと…。隣
接地の住宅の樋に葉がつまる、敷地内の保
育園に台風で枝でも折れて園児に事故でも
あつてはならないとの理由だとか…。昨今
のゲリラ台風を思えばそのような苦情がく
ればいたしかたないとのこと…。

その日以来散歩の折々、裸木になった公
孫樹に両腕を廻して耳を付け、声を聴くよ
うにしています。「貴方は強い木、神様から
選ばれた木、頑張つてね。」…と、せめては
と、落とされた枝を何度も拾いに行き、日
がな一日葉をむしり採り、干しておりまし
た。カラカラに乾いたら、粉末にして大切
に使わせて頂きましょう。公孫樹の葉はボ

ケ防止の特効薬ですから…。

園児達は最も贅沢な宝物を庭としていたはずです。春から秋への移ろいを肌で感じ、黄金の落葉に遊び、語らずして、計り知れない恩恵に抱かれていたはずです。

どんなに医療が発達し、科学の叡智が優れていようとも、自然の偉大さとその恩恵をもっともつと肌で感じて生きる日々であつて欲しいと願うばかりの令和二年五月の過ぎ逝きにございました。

地球環境が放つ気が最も治癒力を持つているのだ…と、自信が持てるほどの環境作りも大切ですね。日本には豊かな山があり、川があり、海があります。このようにバランスの優れた豊かで美しい国は日本しかないのでは…と思わせるほどの恵みにございます。

その昔、世界は水のあるところより栄え、水涸るとともに都は消えたことを想えば、日本そのものが地球の宝の存在であるかと思へいます。

新型コロナウイルスの影響は多くの経済の破綻を招いています。経済とは「世を経済民を済」世の中をよく治めて人々を苦しみから救うことだそうです。

でも、今日だけは、自らが自らを救い、守る、という一人一人の意識が大切かと存じます。

いつの時代も変わつてはならないこと、自然界の確かな命をいただき、動植物の確かなものたちに感謝し、確かな智慧と工夫で使いきる、食品ロスにもつと心の痛みを感じ、自然の恵みを大切に！

この度の外出自粛においては、そのような智慧と工夫のチャンスでもあります…ね。ここにもピンチをチャンスに…の姿がありそうですよ。

皆様方と共に実践の日々にございます。今少しスペースがありそうですので、イチョウの葉のことについて少しばかり…。私はイチョウは神木と信じておりますので、公孫樹という字を好んで使います。

銀杏と書いてイチョウとも読みますが、料理人といたしましては、銀杏はギンナン、公孫樹の種子として区別したいところです。

今一つは、鴨脚樹と書いてイチョウと読ませてもいます。イチョウの葉の形が鴨の足に似ているところからついた名ですが、鴨脚と書いて中国読みがイチョウなので、

そのままイチョウとして日本に伝わったものと思われます。「ユウソングジュ」については、公孫とは王侯の孫、または貴族の子孫を意味します。

あのおびただしい銀杏の実を地面に落とす光景を公園などで目にする度に、あゝ、子々孫々栄える象徴のような樹なのだ…と、王や貴族が子孫繁栄を願った公孫であり、イチョウは公孫樹なのです。

その公孫樹なるもの、おおよそ二億年前から存在、漢方薬として、中国では五千年前から気管支炎の治療薬として用いられてきたそうです。日本でも解毒、抗炎症、産前産後、長寿などの生薬として利用されてきており、現在、アメリカやヨーロッパではイチョウの葉から抽出したエキスを認知症の改善に使っています。

脳の血液循環障害に効果があることが確認されていて、血管拡張作用、血栓溶解作用が脳の血流を良くすると考えられています。

抽出液ほどの働きはなくとも、イチョウの葉にも血流を良くする働きがあります。イチョウ茶を作り置きするには、丁度今頃が収穫時です。少なくとも七月上旬ぐらい

までのものがアクが少ないように思います。

天日で乾燥、細かく裁断して保存します。

急須に二十g程入れ、熱湯を入れてしばらく抽出したものを飲みます。煮出す方法もあります、性が強いので、急須の方法が宜しいかと…。

あれ！書きすぎ？？

参考文献

「機能性食品ガイド」 講談社 他

教室の予定

京都余慶庵茶事教室以外の諸教室は、

八月はお休みです。

新型コロナウイルス防止の観点から日程、内容が変更になる場合がございますので、御了承ください。

利休会記を読み解く会(目黒・羅漢寺)

七月二十五日(第四土曜)

午前十時から正午 昼食後解散

会費 五千円

千葉東金教室

文月の茶事(七夕・夕ぎり、朝茶)

七月十二日(第二日曜)夕ぎり

七月十三日(第二月曜)夕ぎり

席入 午後五時

点前担当者、水屋実習者 十時半に

大網駅にお迎えに上がっております。

七月十三日(第二火曜)朝茶

席入 午前六時

会費 一万円(レギュラー者)

一万二千元(単発参加者)

夕ぎりは、小灯料(二千元)

の御協力をお願いします

○連日研修者は、翌日は五千円参加です。

○遠方よりの参加者は十五日の夕ぎりに続き、十三日の(午前九時解散予定の)

朝茶に参加することをお薦めします

○宿泊希望者は、早めにお申し込みください。

七名まで一泊二千元です。

京都教室

(余慶庵・八瀬のまなびや)

七月 八瀬のまなびや貴素の会

七月一日(水)～八日(水)の間

在京します。

五日・六日(日・月)

午前九時半～午後二時

季節の基本料理

会費 レギュラー会員

一日三千元、二日五千元

単発会員

一日五千元、二日七千元

七日(火)利休会記と再現料理

会費 レギュラー会員 三千元

※全日通してこの会のみの参加者

は、単発会員に準じます。

単発会員 五千元

(講義のみの方は三千元)

午前十時 講義

正午 再現料理・会食

午後三時 終了

茶事教室会費

二万円（レギュラー）

二万三千元（年三回以上参加）

二万五千元（単発参加者）

湯河原教室

口悦会・利休会記を読み解く会

七月十九日（第三日曜）

七月二十日（第三月曜）

八日（水）自由学習及び
常備食作り等
会費 レギュラー会員 二千元
単発会員 三千元

※連日参加者の会費について、

一日分は正規の会費、他の日は

一日五千元の研修費となります。

大徳寺瑞峯院内余慶庵茶事

八月一日（土）～五日（水）の間
在京します

○お詫びとお断り

八月三日の朝茶は、四日に変更になります。五月末に予定しておりましたNHK文化センターの講演が八月三日に延期になりました。

会場と諸事情により、勝手ながら、

余慶庵での朝茶は二日（日）、四日

（火）となります。

御注意くださいますよう。

また、八月三日で御予定されていたお客様には深くお詫び申し上げます。

柏泉亭（柏グループ）利休会記

七月二十二日（第四水曜）

会費 五千元

栃木農園レストラン

口悦会・利休会記を読み解く会

七月二十三日（第四木曜）

会費 五千元

八月五日（水）しめし灰作り

八瀬のまなびやにて